

## 伏流する欲望

### － 高齢者デイサービスでのエピソード記述をもとにして －

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
対人援助学領域  
家族機能・社会臨床クラスター  
田中 元輝

筆者は理学療法士としてリハビリテーションに従事している。その現場で聞くことができる高齢者の欲望は謙虚なものが多い。しかし障害当事者運動について学ぶにつれ、高齢者は何らかの理由で欲望を十分に表出できていないのではないかと考えるようになった。

本研究は、高齢者の欲望について考えることを目的とした。それらをまとめ、発信することが高齢者に対する偏った判断を防ぎ、権利擁護になる可能性があると考えている。

調査については介護保険制度下の高齢者デイサービス(以下、デイ)で参与観察およびインフォーマルインタビューを行った。データの内容は利用者の日常的な行動や調査者との会話などである。

デイには積極性を良しとする場の流れと期待がある。しかし利用者はそれから逸脱する消極的な行動をとることがある。消極性のなかにある主体性をみて、筆者は消極的な行動に利用者の欲望が反映されているのではないかと考えた。しかし、デイの場の流れと期待が表面にあり、消極性の奥にある利用者の欲望は見えにくかった。それを踏まえ、消極的な行動の奥にあるかもしれない欲望を「伏流する欲望」と名付けた。

本研究を通して、対人援助の場面において伏流する欲望を見ようとする姿勢の必要性が示唆された。また、高齢者の一部分をみて判断するのではなく全体をまるごと見ようとすることは、権利擁護につながる可能性があると考えられる。